



2016年度 学校評価

学校教育目標	重点目標 (中長期的目標)	総合評価			
校訓 「創造・自律・誠実」 (1)一人一人の生徒を尊重する教育の実践	基本的な生活習慣を確実に身に付けさせ、確かな学力を養うとともに、豊かな心で総合的な生活力を持った生徒を育成する。	本校の特色であるエリア制に関して、学校評価アンケートで生徒の9割が前向きに捉えている。また、もう一つの特色である少人数習熟度別授業を継続実施して、確かな学力養成に努力した。更に授業評価アンケートを通して生徒に「授業の五か条」「携帯電話の五か条」を意識させ、生徒自身の学習に向かう姿勢を育成した。同時に、案ヶ一校と結果をもとに授業社の授業改善に努めた。更に生徒会活動・部活動などを通じて、地域と連携した企画に継続的に参加することで、生徒の自主的活動力や地域を考える意識を引き出す取り組みを向上させた。こうした活動は、学校評価アンケートや学校評議員会の中でも評価された。今後も保護者や地域の方々との関わりの中で、身だしなみや挨拶、マナーなど、基本的な生活習慣の更なる確立を目指したい。			
(2)いじめや体罰のない安心安全な学校生活の保障 (3)自発的、自主的な学習態度の育成 (4)個性を生かす進路指導の充実 (5)情操豊かな徳性と自律の精神の養成	今年度の重点目標 ①生徒が個人として尊重され、安全で活力ある学校生活を保障する。	成果と課題 学校全体として、ここ数年落ち着いた雰囲気維持している。本年度は、問題行動の発生件数が昨年に比べ減少している。また、本校として厳しく対処している暴力(喧嘩)やいじめについては事案は起こっておらず、普段からのきめ細やかな指導が成果を上げている。さらに、SNSによるトラブルも昨年度に比べ減少している。特に、入学生のオリエンテーション時や各教科指導においても関連させて指導がなされていることが大きい。しかし、日々変化するSNSの情報を教員が把握し、生徒にもその情報を提供できるようにしていく必要がある。 今年度の特徴としては、在校生や中途退学者の交友関係から外部の有無職少年の校内立ち入りがあった。在校生の安全に関わる問題はなかったが、今後校内巡視等に工夫が必要である。	A	B	C 改善策向上策 今後、さらに安全で活力ある学校生活を送るためにも、生徒会活動・クラブ活動がより活発になっていくことが重要である。そのために学校が地域の方々と連携を取りながら様々な活動に取り組むことができる環境を作っていく必要がある。生徒会活動は執行部が中心となって活動し、またクラブ活動ではそれぞれのクラブが目的をもって活動している。運動部、文化部に限らず、以前に増して活動範囲が広がっている。 以前と比べ、外部との関係で問題が起こることは減少したが、SNSの普及により生徒たちの交友関係は拡大し、誰でも友だちになることが容易である。問題を未然に防ぐためにもSNSへの対応に、学校全体の指導として取り組む必要がある。 学校において、安全面・健康面の管理は必要不可欠である。職員が常に幅広い視野を持ち、生徒・保護者に対応していくことが大切である。
(6)心身の鍛錬と質実剛健の気風の育成 (7)郷土を愛し、地域に学び、地域に尽くす心の育成	②基礎学力に習熟し、探究的学力を伸ばす授業づくりをすすめる。	入学時より、数学・英語を中心とした「学び直し」を進め、特に数学・英語では、習熟度別授業によってよりきめ細かな指導を行っている。基礎学力の定着や進学希望者の学力向上が大きな課題であるが、「基礎力診断テスト」を利用して、学力向上の意識を高めるために講演会なども実施した。また、授業については、グループでの調べ学習からプレゼンテーションなど、課題解決能力やコミュニケーション能力を育成する授業が行われた。今後も各教科で更なる授業改革を実施していきたい。			「基礎力診断テスト」の結果を細かく分析し、生徒の弱点を明確にして、基礎的な学力と読解力を向上させる取り組みを行っていききたい。また、習熟度別・エリア別授業を生かして、進学希望者の学力向上を図ると共に、キャリア教育を意識し、社会的・職業的に自立を目指した授業改革に取り組んでいきたい。
(8)創造の意欲に燃える新たな良き校風の樹立	③個性と能力を活かしたキャリア教育と組織的進路指導を実践する。	3年間を見通した進路指導計画である進路チャートに基づいて計画的に指導ができていく。よって近年本校では3年生の進路は比較的早い時期に全員決定している。今年度は一般受験を除く生徒全員の進路が決定した。一方、指導の流れに乗れず、進路方向の意思決定が遅れ、進路実現が難しい生徒もいることが課題である。			近年進路チャートによる計画的な指導は定着しているため、今後も確実に実施していく。また生徒1人1人の状況を把握し、早い段階から担任と情報交換をして連携する。また、様々な外部機関とも連携し、生徒1人1人の進路実現を様々な角度から組織的に支援していきたい。
	④社会参加を促し、自治能力や総合的な生活力を養う学校教育活動を展開する。	部活動や生徒会活動は全般として日常的に展開されている。このことは学校全体の活力や雰囲気作りに貢献できている。主体性、協調性、社会性を育成する手立てとなっている。地域との活動や東北支援活動等を通じ社会参加の意識や自治力の向上が図られつつある。 ただし依然として、意識や関心の高さが生徒によって差がありより広く全ての生徒へ意識を浸透させることが引き続きの課題である。			行事や学校生活に生徒が問題意識を持って取り組める生徒会活動を工夫する。そのために活動の成果が目に見えて実感でき喜びを感じられる方策が必要である。また、地域とのかかわりをより密にし地域の声を聞く機会を持たせることで当事者意識を高める指導を展開したい。生徒一人ひとりが学校、社会の構成員であるという自覚と問題意識を持たせることが自治能力の育成に不可欠であると考えられる。
	⑤地域社会に根ざし、生徒・保護者・住民参加の開かれた学校づくりを促進する。	全校で取り組んだ活動「花という笑顔を～東北へ～」においての松川町や地域との協働や地域ボランティア活動においても積極的に連携できた。また、優れた地域指導者を招聘しての「社会人講師による授業」においても、多方面からの講義が実現し昨年度を超える実践であった。生徒に学習意欲および探求活動の向上につながり好評であった。			今後においても、学校案内や学校活動情報誌(フルーツバスケット)またホームページ等を工夫し、学校の様子を広く地域に発信することに努めたい。また、地域からの要望等を聞きながら、さらに開かれた学校づくりに努める。さらに、生徒自身の自発的なボランティア活動等を促すとともに、その受け皿となる町や公民館および企業との連携を深めていきたい。